

# ズワイガニ漁場開発調査

## I 調査目的

本県日本海における未利用資源であるズワイガニの漁場を開発し、漁船の合理的操業計画を樹立させて、沿岸漁業者の経営の安定をはかる。

## II 調査内容

- (1) 調査期間 昭和44年12月1日～同年12月23日
- (2) 調査員および調査船  
調査員 技師 富永 武治  
技師 田村 真通  
調査船 試験船幸洋丸121トン400馬力
- (3) 調査海域 青森県日本海沖合海域
- (4) 調査項目
  - ① ズワイガニ分布状況
  - ② 漁獲物組成

## III 調査結果

### (1) 分布状況

ズワイガニ漁場開発計画図にもとづき、カニ籠2放(1放カゴ30ケ)を使用し、餌料は冷凍小サバを使用して調査した。

調査は12月2日小島沖W/N6.4マイル水深250～230m(24海区)、小島沖W/S6.4マイル水深330～380m(42海区)にそれぞれ1放投籠し、調査を開始したが、その後連日の時化のため揚籠は16日経過した12月18日となった。

この小島沖海域は43年12月に第1図13・14・15・22・23・35・44の7海区を調査し、1放当り大カニ(12cm以上)10尾、中カニ(11～8cm)73尾、小カニ(8cm以下)70尾、計153尾の平均漁獲尾数で、昨年調査海域の中でもっとも漁獲の良かった海域であった。本年の調査は漁具の敷設時間が長かったにもかかわらず1放当り大カニ15尾中カニ175尾、小カニ13尾、計200尾で昨年より高い水準にあった。

### (2) 漁獲物組成

無作為に抽出した30尾の平均甲巾および平均体重は24海区では11.4cm、587g、42海区では11.2cm、531gで両海域とも雄のみであった。また、24海区でベニズワイガニの小型のものが3尾混獲された。

## IV 今後の課題および問題点

本年の12月は例年より気象が悪く、たゞ2放の調査だけで十分な調査を実施することができなかったが、今後は更にきめ細い漁場とともに、経営面の検討たとえば販路の開拓、流通の改善を推進することが必要であり、多くの籠を積載するため漁具の改良も一つの課題となろう。

第 1 図

□ 内の数字は海区番号

斜線は昨年調査海区

○印は本年調査海区

